

## 5 歳児実践事例

### 「うまくいかない場面で、友達と考え、工夫しながら遊んだ事例」

～「山車のタイヤを回るようにしたい」～

#### 1 子どもの実態

一緒に遊ぶ友達に、思い付いたことを話しながら、同じ目的に向かって遊ぼうとしている。友達のやろうとしていることが分かると、まねたり、役割分担をしたりして、一緒に遊ぶ楽しさを感じている。

夏祭りに山車を見て、興味をもった子どもたちが、ダンボールで作り始めた。(A 児, B 児, C 児, D 児) 土台ができると、乗ったり引いたりして遊んでいた。数日後 B 児が、山車にタイヤを付け、回るようにすることを思い付き、4 人で作り始めた。

最初は、ダンボールで平面のタイヤを作ったが、すぐに壊れてしまった。絵本を見たり、教師の提案を聞いたりし、細長いダンボール板を巻き、立体的なタイヤを作ったが、うまく回転しなかった。

A 児の実態・・・活発に思いを話しながら遊ぶ友達をまねて遊ぶことで安心する。思い付いたものを工夫して作ったり、思い付いたことを話したりするものの、友達への関わり方が控え目なため、考えややっていることが、友達に伝わりづらい。

B 児の実態・・・発想力豊かで、様々なことを思い付く。また、制作が好きで、自分なりに工夫し作ろうとする。反面、思いはあっても制作が粗雑であり、思ったようにいかないと、途中で諦めてしまいがちである。また、友達を気にせず、自分のペースで遊ぼうとする傾向がある。

#### 2 教師の願い

A 児・・・自分の思い付いたことを、友達に受け入れられるうれしさを感じながら、試したり工夫したりして遊ぶ楽しさを感じてほしい。

B 児・・・うまくいなくても諦めず、友達と一緒に、試したり工夫したりして遊ぶ楽しさを感じてほしい。

#### 3 保育の実践 (9 月初旬)

幼児の姿と教師の援助 _____: 教師の援助	教師の意図・考察
<p>回転しないタイヤを見ていた A 児が、「左の前のタイヤだけ回るけど、他が回っていないみたい。」とつぶやいた。<u>①教師が、「なぜかな。左の前のタイヤは、他のタイヤと、どこが違うのかな。」と、周りの子どもたちにも聞こえる声の大きさで、聞き返した。</u>A 児が、「左側のだけ、大きさが違うのかな。」と言うと、B 児が「大きさを比べればいい。」と言った。そこで、一度タイヤを外してみた。子どもたちは、4 つのタイヤを重ねたり、並べたりし、大きさが違うことに気付いた。A 児が、「大きさを全部同じにすればいい。」と言った。<u>②教師が「どうすると同じ大きさになるかな。」</u>と言うと、A 児が「ダンボールをもっと長くつなげてから巻けばいいと思う。」と言った。それを聞いた 3 人も、「やろう。」と賛成した。そこで、再度ダンボールの板をつなげて巻き直し、4 つのタイヤを同じ大きさにした。タイヤを付け直してみたが、またうまく回転しなかった。</p> 	<p>① A 児のつぶやきを拾い、周りの友達に聞こえるようにすることで、周りの友達が、A 児の考えに興味を向けてほしいと願った。また、A 児の気付きをきっかけに、回転するタイヤとしないタイヤの違いに着目することで、次の手立てを思い付きやすくなるようにした。</p> <p>② うまくいかない原因を、筋道立てて考えられるよう、A 児の気付きを受け止めた。また、周りの友達に、A 児の考えが伝わりやすくなるようにした。</p> <p>③ A 児の気付きを言葉にして受け止め、周りに伝わるようにしながら、問題点を明確にし、そのための手立てを、子どもたちが思い付きやすくなるようにした。</p> <p>④ 考えたことを友達や教師に認</p>

<p>翌日も朝から続きを始めた。A 児がタイヤを見ていて、「きれいな丸い形は回るけど、ぺちゃんこの形だと、うまく回らないのかも。」と言った。<u>③教師がA 児の言葉を繰り返し、他の3 人に聞こえるように言うと、</u>B 児が、「あっ分かった。」とゆがんだ形のタイヤに体重を掛け、丸い形に整えることを思い付いた。それを見た3 人もB 児をまね、タイヤの形を直した。<u>④教師もまねてやってみた。</u>B 児は「ほら、けっこう丸くなったでしょう。」とうれしそうな様子だった。</p> <p>再度、タイヤを付け直したが、やはりうまく回転しなかった。</p> <p>翌日も、朝から4 人で山車の周りに集まり、タイヤを動かそうとしていた。少しすると、B 児、C 児、D 児は興味がそれ、手近なペーパー芯を転がしたりし始めた。<u>⑤教師が、タイヤの動きを見ながら、「もしかしたら、棒（車軸）が短すぎるのかもしれない。タイヤがすれて動けなくなっているみたい。」</u>と言うと、B 児が「長くすればいいんじゃない。」と言った。教師「長くすれば、回るかもしれないね。」と、周りに聞こえる声で話すようにすると、C 児、D 児も、「やってみよう。」と戻ってきた。</p> <p>短い車軸を長い物に取り替え、貼り直すことにした。B 児は、切ったガムテープを、しわくちやのまま次々に貼っていき、「ぐらぐらしてすぐには取れる。」と言った。<u>⑥教師が、「本当だね。これだとしっかりくっつかないね。いい貼り方ないのかな。」</u>と言うと、A 児が、縦向きに貼ったガムテープの上から、ガムテープを横向きに貼り、補強した。<u>⑦教師「A ちゃんのやり方だと、しっかりつくね。」</u>と言うと、それをまねたC 児が、「本当だ、A 君すごい。」と言い、A 児は笑顔になった。</p> <p>車軸を長くし、山車を引っ張ると、わずかに、タイヤが回転した。<u>⑧4 人と教師は「やったあ。回った。」と喜び合った。</u></p>	<p>められることで、B 児が、友達や教師と一緒に作る楽しさを感じてほしいと願った。</p> <p>⑤ 子どもたちが違うことを始めた様子から、思いはあるものの、数日にわたりタイヤ作りがうまくいかず、集中が途切れそうになっていると感じた。また、これ以上子どもたちだけで、タイヤの問題点を探し、直す方法を考えるのは、難しいかもしれないと考えた。そこで、教師からも、次の手立てを考えるきっかけになるよう提案した。</p> <p>⑥ B 児の言葉を教師が受け止め、周りの友達に聞こえるようにすることで、一緒に遊ぶ友達同士でどうすればよいか考えるきっかけになるようにした。</p> <p>⑦ A 児が、自分の貼り方を、B 児から認められることで、友達から認められるうれしさを感じられるようにと願った。</p> <p>⑧ 自分たちなりに思考錯誤した結果、ようやくタイヤが回ったことが大きな喜びになっていると捉え、教師もうれしさを共有した。</p>
---	---

#### 4 考察

- 自分の思い付いたことを受け入れ、一緒にやってくれる友達や教師の存在があったことで、うまくいかなかったり何度も試そうとするA 児、B 児の姿につながったと考える。教師が友達同士のつなぎ役になり、互いの考えやしていることを橋渡ししたり、一人一人の得意なところやよさを引き出し、感じられるようにしたりすることで、互いに受け入れ合いながら、力を合わせて一緒に遊ぶ楽しさを感じることができると考える。
- 思うようにならず諦めそうになった際、どこが問題で、そのためにはどうすればいいのか、子どもの言葉を丁寧に拾い上げ、整理しながら、どの子にも分かりやすいようにしていくと、次の手立てを思い付きやすくなる。困り感に寄り添い、仲間の一人になって一緒に考える援助が、子どもたちの安心感となり、試行錯誤する姿につながると考える。
- 「タイヤが回るようにしたい」という思いで、子どもたちが選んだ素材は、身近なダンボールと、廃材の芯だった。子どもたちが選んだ素材で試そうとする姿を見守ったが、うまくいかない場面で、木や缶など、硬い素材を選べるようにしていたら、そちらを試す姿につながったことも考えられる。反面、子どもたちにとってある程度の硬さがあり、扱いやすく手を加えやすい素材と考えると、やはりダンボールが、自分たちの知っている中では、適していたとも考えられる。目的に応じて、選べる素材の提示ができれば、遊び方はより広がったと考える。